

研究の守破離 (4) 今は昔、測定尺度集なるものありけり

研究推進委員の小菅です。初回に掲載した声の中から今回は以下を取り上げます。

研究し難いのは既存の尺度を知らないから。新しい尺度本があればと常々思っている。

私は心理学が専門なので、今回取り上げる「尺度」は「心理測定尺度」です。心理測定尺度とは、心理現象を測る方法のひとつです。例えば「目標を設定すると行動が起こる」という時の「目標」は直接観察できないので、「目標」というものがあると仮定し（これが構成概念）、「行動」が起こるといふ現象を説明するような場合です。その構成概念を測るのが心理測定尺度なので、心の物差しと言われることがあります。

残念ながら紙媒体での尺度本は近年作られていない様子ですが、オンライン上では心理尺度を集めたホームページを見つけることができました。

日本パーソナリティ学会「心理尺度の広場」<https://jspp.gr.jp/scale/>

同会の学会誌に掲載された尺度が年度順に並べられています。本会のホームページにもこのような掲載ページができると嬉しいです（実現するかも…？という期待を込めて）。

既存の尺度に何があるかを知るためには、理論を手がかりに探すといいでしょう。そこで海外にも目を向けて、本会の会員が興味を持ちそうな理論や尺度が多く掲載されたホームページを紹介します。

OBHRM 百科事典

中国の研究者の有志が編集しているようで、中国の研究仲間に教えてもらいました。OBHRM は組織行動 (Organizational Behavior) と人的資源管理 (Human Resource Management) の略でしょう。中国語で記載されていますが、例えば Microsoft Edge や Google ではホームページ全体を一気に翻訳してくれます。翻訳後の日本語でも大体の意味はつかめるので、これを手がかりとしてさらに詳しく調べることをお勧めします。

尺度や理論を知るのに、研究のレビューが多く掲載されているハンドブック（例えば「The Oxford Handbook of ~」のシリーズ）を読むこともいいですね。大学院では輪読の教材として使用されたり、興味のある人たちが集まって読書会をしたりということがよくあります。興味がある方、ぜひ一緒に読みたいので声をかけてください。

英語論文や洋書を読むのは大変…と思った方へ。今ではかつてより格段に精度のあがった無料の翻訳アプリが充実しています。私の周りの研究者は DeepL 翻訳、学生は Google 翻訳 が身近なようです。後者には文献に直接カメラをかざすリアルタイム翻訳機能があり、ざっと読みたい時には便利です。もちろんいずれも誤訳はあるので注意です。

逐一論文を検索するのは大変…と思った方へ。「Connected Papers」という関連論文をグラフで可視化する Web サービスが便利です。現在無料プランでは月のグラフ作成数が限られますが、まずはぜひお試しを。引用数で関連が決まるようで、日本語文献だとグラフが作られにくいのが難点ですが、英語キーワードを入れて翻訳してははいかがでしょうか。

便利ツールを駆使し、お互いに研究を進めましょう！ (駒沢女子大学 小菅清香)